

まつかげ会会報

発行

愛知縣中川中學校
愛知県立松蔭高等学校
同窓会
名古屋市中村区烏森町
2-2

印刷

日本メール株式会社

今日この頃思うこと



同窓会会長

星野 行正

昭和48年卒(25回生)

この三年間のコロナ騒動の中で、日常の生活に変化が起きました。

営業職である私であっても在宅勤務という形態をとり、営業資料は郵送し面談回数を減らすようになりました。営業で飛び回ることが減り、自宅の机に向かう時間が増えました。

そうなる、動画を観る機会が増え、何か興味をひく物はないか、と探していると思つと思うものが在りました。紹介するのは、広島県にある、人口二・七万人の小都市安芸高田市の市長と議会とのバトルです。

特段、政治に興味がある訳でなく、政治離れしている老人といったほうが早いでしょう。

三年前、三十八才で当選した石丸伸二市長の当選から始まりました。

三年前の広島県といえば、御夫婦の国会議員の贈収賄事件です。前市長が収賄容疑による辞職からの市長選挙になり、副市長の立候補により無風選挙で終わるのではとの報道に、石丸氏は立候補を決めます。

京都大学卒・メガバンクニューヨーク勤務のアナリスト

の職を捨て、産まれ故郷の安芸高田市の市長選挙に立候補します。

結果は予想を覆し、石丸氏が当選。

最初の市議会から、バトルの切掛けが始まります。

議員数は十六名。そのうち九名は清志会という派閥があり、そのメンバーの一人が、議場内に響きわたる大騒。

翌日、市長のツイッターで大騒の事が拡散され、その派閥からの抗議。

それに輪を掛けるように、議長が寝ることは当たり前と発言。

これには、市民からの猛抗議があり議長は謝罪に追い込まれました。

最大派閥からは、市長の政策には全て反対していくとの恫喝発言。これもツイッターで拡散。とまあ、こんな感じで大波の出航でした。

その後は、六千人からの応募があった副市長公募の選定後、当市以外の出身者で当市の事が分かるのか、と議会による否決。

年間2700万円を市から赤字補填している道の駅に、無印良品の新店を決めたのに、市長から議会に事前説明が無かった事を理由に否決。

まだ他にも議事議案があるのですが、こうした議員と市長とのやり取りが痛快です。

「質問をするのであれば、その事項について勉強してきてください」

「質問が日本語になっていません」

「恥を知れ！恥を！」

「質問の文章が省庁のコピペです。一般社会では職を失います。よかつたですな議員で」

など、痛快に切つていきます。

今まで、馴れ合いとネゴで進められて来た議会運営がツイッターと、毎月発行される市の広報紙に記載される議会

たより、そしてユーチューブで、白日のもとにさらされ、慌てふためく古株議員といったところでしょうか。

市長は、こうした発言は意図して発しているようです。

政治を変えて行くのは、一般市民が変わらないと変えられない。一人でも多くの市民に市政・議会に興味を持ってもらいたい。それが、将来の市の消滅を防ぐことになる。

こうした議会映像は、すぐにユーチューブにアップし、五十万以上再生され意見が書き込まれていきます。

この市長には、もう一つ地元新聞中国新聞の記者とのやりとりも多くアップされています。こちらも見ものです。

安芸高田市、皆さんご存知でしたか。私は知りませんでした。平成の大合併で、六町が合併し、市としてスタートしました。

広島県とはいえ、広島市より島根県に近い山間部の市です。

市長は、就任した時どんな戦略を考えたのでしょうか。課題は、「財政再建」「住民の意識改革」「市政・議会の透明性」「市の知名度アップ」などでしょう。

しかし、予算はない。そこで白羽の矢があつたのは、動画投稿。

議会でのやりとり、メディアやりとりが注目を集めれば、それらの問題解決に繋がりが、知ってくれる人が増えてくれるのでは、と考えたのでしょう。

私もその戦略に、まんまと乗せられた一人です。情報は取りに行くものから、情報は発信して行くものと時代は変わりつつあります。

発信したものが、より大きな物になって手元に返ってくる。今では、全国から市長への応援メールが届き、九月には、昨年の十倍のふるさと納税が寄せられまになりました。

若者の政治離れとよく言われますが、若者だけでしょうか、五十%を割る投票率では若者だけでは無いはずですが、非常にニツチな話題で、ご興味無い方もいらつしやると思います。今三十代で当選した首長が数名いるときいています。

こうしたことから、また「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われる日本の礎になつてくれる事を祈念しペンを書きます。

有難うございます。

松蔭
あれこれ

校長

久保田 昌俊

まつかげ会会員の皆様方におかれましては、ご健勝で
ご活躍のこととお喜び申し上げます。日ごろから母校で
ある松蔭高校の教育活動にご支援とご協力をいただき誠
にありがとうございます。また、事あるごとに力強い応
援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

私は、この4月に、前任の渡邊修校長先生のご定年
によるご退職の後を継いで着任しました久保田昌俊と申し
ます。昨年度まで暫くの間、県教育委員会や県スポーツ
局に勤務し、アスリートの発掘・育成・強化を主に担当
しておりました。実は私、平成16年度から23年度までの
8年間、本校に教諭として勤務しておりました。保健体
育科教諭、生徒会部担当、ハンドボール部顧問を務め、
いつも教室内外で生徒に近いところに位置していたこと
から、松蔭生のパワーに負けないよう、いつも気合を入
れながら勤務していたことを思い出します。久しぶりに
本校に帰ってまいりまして、部活動や学校行事に真剣に
向き合う、当時と変わらぬ活力ある生徒諸君と再び一緒
に学校生活を送ることができることを大変うれしく思っ
ております。どうぞよろしく願います。

さて、本校に着任して8か月程が経ちましたが、以前
と変化したこともいくつかあります。そのうち、三つあ
げさせていただきます。

一つ目は、校舎等のリニューアルです。私が以前在職し
ていた頃から順次工事が始まりましたが、校舎外壁をは
じめ、廊下や教室、そしてトイレも大変きれいに、そし
て全体的に明るくなりました。そして、現在体育館を全
面改修しており、来年1月末には工事完了予定で、今年
度の卒業式は新装の体育館で行われます。学校の顔とも
いえる体育館が美しくなるのを大変楽しみにしております。

二つ目は文化部の躍進です。「部活動の盛んな進学校」
を標榜する本校は、以前から運動部が全国大会に出場す
るなど活動は盛んでした。今では、和太鼓部や書道部、
そして演劇部も大活躍です。特に和太鼓部は、文化部の
インターハイといわれる「全国高等学校総合文化祭（総
文祭）」に8年連続で11回出場し、今年7月末には全国
最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞しました。今大
会は鹿児島県奄美市で開催されましたが、ちょうど台風
6号が迷走している時期にあたり、急遽発表日程が変更
されたり、帰着便が欠航となり延泊を余儀なくされるな
どトラブルが多発しましたが、それを乗り越えての受賞
でした。また、この結果全国で12校しか参加できない東
京の「国立劇場」での優秀校公演がかない、歴史ある日
本伝統芸能の拠点で堂々と松蔭生の力を魅せてくれまし
た。書道部も今年の総文祭（鹿児島県薩摩川内市）に作
品を出品し、全国から集まった書道部員との交流会に参
加しました。そして演劇部は、昨年度に引き続き中部大
会出場が決まっており、総文祭への出場を目指して頑張
っています。

三つ目は、地域の中学校からの信頼です。着任以来、中
村区内の中学校を訪問し、各校長先生にご意見やご要望
をお尋ねする機会がありました。以前から松蔭は地元の人
気校でしたが、改めて今年中学校を回って、「生徒の
面倒をよくみてる学校」との評価を多くいただきました
。本校のここ数年の進学実績は輝かしいものです

が、その成果は松蔭の先生方が生徒の面倒をしつかり
みていると理解していただいているのです。実際、4月
早々から、昼休みや放課後には職員室などで担任と面談
を行ったり、質問をする生徒が絶えることはありません
。こうした生徒と正面から向き合った先生方の努力
が、近隣の中学校から高く評価されていることは大変う
れしいとともに先生方を誇りに思っています。

今の松蔭は、施設が充実し、部活の成果も顕著で、進路
実現も高いレベルに向かっていきます。以前よりパワー
アップしていることは間違いありません。この波が途切れ
ることがないよう、そして松蔭の良き伝統と相まって、
更に本校が飛躍していけるよう学校運営に努めてまいり
ます。

最後になりますが、まつかげ会の皆様には、今後も一層
のご支援とご協力を重ねてお願いし、ご挨拶とさせてい
たいただきます。



学校近況報告



教頭

鈴木 啓和

新型コロナウイルスが5類になったことを受けて、これまで制限されていた様々な教育活動が少しずつ再開されてきました。換気などの感染拡大対策は継続しながらも、マスクを外し、笑顔で生き生きと日々の学習活動や学校行事、部活動に取り組む生徒の姿が多くみられるようになり、本来の松蔭高校の姿を見せつつあります。部活動をはじめとする教育活動には、日頃から同窓会より多大な御支援いただいております。大変感謝しております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

以下に、本校の近況を報告させていただきます。

1. 部活動について

和太鼓部 令和5年7月から8月にかけて鹿児島県奄美大島で行われた「全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）」において、8年連続全国大会出場の和太鼓部は、52校参加の郷土芸能部門で全国第1位に相当する「文部科学大臣賞」を受賞しました。この結果を受け、8月に東京国立劇場において「第34回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」に出演することとなり、この大舞台でも素晴らしいパフォーマンスを披露しました。現在、令和6年の「清流の国2024きふ総

文」への出場に向けて、日々練習に励んでいます。

演劇部 昨年度に引き続き、今夏の名古屋地区大会、愛知県大会を経て、この12月に石川県で行われる「中部高等学校演劇大会」への2年連続出場が決まりました。日頃の生徒と顧問の努力が実り、この結果につながりました。昨年度の「中部高等学校演劇大会」では第2位となり、大分県で行われた「第17回春季全国高等学校演劇研究大会」に出場しました。今回も素晴らしい結果を残してくれると思います。

書道部 令和5年7月から8月にかけて鹿児島県薩摩川内市で行われた「全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）」に3年松村日南子さんの作品が出品されました。松村さんは中国の書家、王羲之が書いた手紙を行書と草書で表現した作品を出品しました。

2. 文化祭について

昨年度に引き続き、保護者限定での公開開催となりました。夏季休業中から体育館が改修工事に入ったため、例年どおりの内容とはいきませんでした。したが、クラスや文化部、有志の発表などそれぞれが、教室や武道場、躍動像前の松蔭ガーデンで、熱の入ったパフォーマンスを披露してくれました。PTAの保護者の方々にはアクティブラーニング室でジュースやアイスなど生徒たちの嗜好を踏まえたものを販売していただき、生徒たちの長い行列ができるほどの大盛況でした。天候にも恵まれ、生徒たちは松蔭の文化祭を十分に楽しんでいました。

3. 修学旅行

修学旅行について、昨年度同様、関西方面で実施されました。今年は、初日に広島に入り厳島神社や平和記念公園などを見学し、二日目には5コースでの分散研修を行い、備前焼体験やうどん打ち体験、美術館見学など貴重な体験をすることができました。最終日にはユニバーサル・ジャパン・スタジオを訪れ、級友たちとの楽しいひとときを満喫しました。

4. 新制服

昨年度、「制服検討委員会スナップ (Shoin New Uniform Project)」の生徒たちと教員、業者を中心に意見交換を重ね、OB、保護者代表の方からご意見をいただきながら、新制服が完成しました。今年度入学生から着用となりました。機能性・利便性の向上と多様性への対応目的として、スラックスとスカートの選択ができるブレザータイプの制服です。凛としたグリーンを軸にした、華やかさと落ち着きを併せ持った、松蔭生らしさが詰まったデザインとなっています。

5. 体育館長寿命化改修工事

今年度夏季休業中から、体育館の長寿命化改修工事が行われています。外壁、内壁の補修、塗り直し、フロアの張替え、車椅子が入り込めるスロープの設置などを行っていく予定です。それに伴い、体育館の部活動について、武道場だけではすべて代替できないため、校外の施設を借用して活動しています。その際の施設利用料は、例年同窓会から御支援いただいている「部活動奨励賞」の費用を活用させていただいております。おかげさまで生徒たちは部活動を継続して行うことができます。あらためて感謝申し上げます。

着任にあたって



教頭

加藤 大真

この4月に本校に異動してまいりました加藤大真（かとう だいしん）と申します。

自己紹介を兼ねまして、これまでの私の教員生活について書かせていただきます。初任校は、名古屋北地区の自由でエネルギーな学校でした。名古屋市内の県立高校は自由であると聞いていましたが、特にこの学校は自由度が高く、生徒は思う存分学校生活を満喫していました。その一方で、学校祭、部活動、学習に積極的に取り組み組んでおり、学校祭には外部から何千人という来校者が訪れるため、生徒たちのクラス発表や演劇発表に時間や手間がかけておられ、非常に完成度が高いものでした。このエネルギーが、部活動や学習にも注がれ、バランスのよい学校だったと感じています。この学校で、授業、ホームルーム、部活動、学校内の業務などについて、多くの先生方や生徒に助けられながら、多くのことを学ぶことができ、とても感謝しています。

次の学校は、名古屋南地区の学校でした。この学校では、学年主任や教務主任を任せていただき、先生方と協力して日々の学習指導等に携わっていました。この学校の子どもたちには、力はあるのに自分に自信がない、今という「自己肯定感」「自己有用感」が低い状況が見られました。このことは、学習や部活動にもみられるた

め、一つ一つのできることや、成功体験の積み重ねで大きな自信になることを生徒たちに説明したり、実際に自信を付けさせたりすることに重点を置いていました。実際に、自信を付けた生徒たちは、他の高校に進学した中学校の頃に学力で及ばなかった同級生を超える大学合格実績を残すこともありました。このときに感じたのは、「生徒たちの可能性は無限であり、自信を持つことで大きく花開くことがある」「今は目立たない生徒でも、努力次第で大きく羽ばたいていける」ことを実感しました。

次の学校は、名古屋市内の夜間定時制高校でした。初めての定時制、初めての夜の勤務であったため、不安でいっぱいでした。しかし、生徒たちはそれぞれ事情があっても精一杯学校で明るく過ごしており、元気をもらえました。特に、外国にルーツを持つ生徒も多かったのですが、日本語に苦戦しつつも、言語サポーターと呼ばれる通訳の方に助けってもらって、授業を受けたり、保護者との面談等を行ったりしていました。定時制にも、球技大会、体育大会などの学校行事があり、とても盛んにおこなわれていました。球技大会ではバレーボールや先生方が考案されたゲームなどをして楽しんだり、修学旅行では大阪のユニバーサルスタジオジャパンに行ったり、京都の嵐山を観光したりして、生徒たち明るい笑顔がはじけていたことが印象的でした。

そして、今年度本校に赴任することとなりました。本校は名古屋地区の学校であるため、以前、他校と一緒に勤務させていただいた先生方が何人もおられたので、とても心強く感じていました。松蔭高校は、「部活動の盛んな進学校」と聞いており、赴任して部活動の様子を見ると、グラウンド、テニスコート、体育館、武道場などで生徒たちが熱心に部活動に取り組んでいました。その一方で、三年生は普段の授業だけでなく、土曜日にも学習会や模擬試験で学校に来て、一生懸命に学習に取り組

んでいる姿を頼もしく思いました。実際に、進学実績において大健闘しており、生徒や先生方が熱心に取り組んでいることが結果として出ていることに感銘を受けました。さらに、中学校を訪問した時も、「松蔭はすごく頑張っている」「授業をしつかりとやってくれる」「あこがれの学校」という声を聴きました。こういった声は、一朝一夕にあがってくるものではなく、時間をかけて継続的に地域の信頼を得ながら、徐々に発生します。こうした声を聴くたびに、令和2年度に80周年を迎えた松蔭高校の確かな歩みを感じました。

交通の便がいいこともあり、尾張地区や知多地区から多くの生徒たちが通ってきます。毎朝、元気に「おはようございます」とあいさつをする生徒たちを見ると、元気をもらえます。同窓生の皆様が、「やっぱり、松蔭高校っていいな」と思ってもらえるよう、力を尽くしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



○新制服のお知らせ○

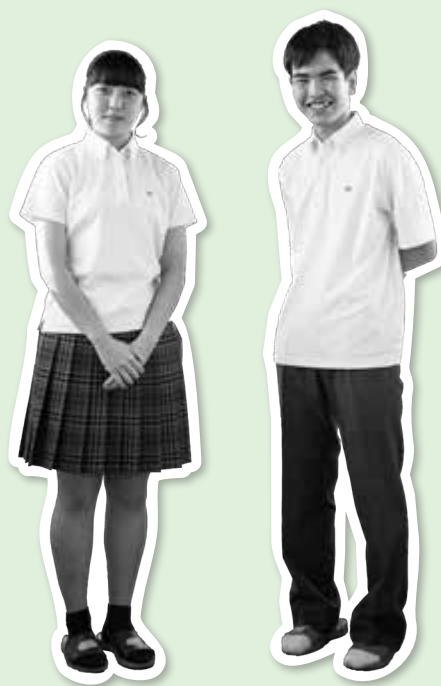
松蔭高校は本年度の入学生から、機能性・利便性の向上と多様性への対応を目的として、制服を従来の詰襟・セーラー服から、スラックスとスカートの選択ができるブレザータイプの制服に変更しました。SNUP (Shoin New Uniform Project) メンバーとなった20名の生徒、教員、PTA、同窓会の方々がトンボ名古屋支社とともに2年間にわたって製作しました。今回の制服変更を考えていく中で、女子生徒のなかに、防寒や動きやすさ、自転車通学を理由にスラックスのニーズが高まっていました。男女問わず「どのアイテムを誰が選んでも良い」という自由選択制を取り入れています。「松蔭らしさ」を保ちながら一人一人の個性も発揮されることになるでしょう。多くの皆さんにも、知っていただけるように松蔭高校ホームページに新制服の紹介ページをつくりましたのでご覧ください。



冬服



夏服



和太鼓部が全国で一位になりました!!

2023かごしま総文(第47回全国高等学校総合文化祭)
和太鼓部門 最優秀校・文部科学大臣賞

文部科学大臣賞

和太鼓部顧問

尾崎 路子

和太鼓部は平成元年の創部以来、尾張南西部の郷土芸能である「神楽太鼓」を継承し、市内各地での依頼演奏の他、地域のお祭りや敬老会での公演活動を通して、地元の人々との交流を大切にしています。普段の練習では、学年を問わず全体の場で気付いたことを自由に述べることで、意見や思いを共有しながらお互いを高め合う姿はとても清々しく、思わず応援したい気持ち

が沸き上がってまいります。

7月末に奄美大島で行われた第47回全国高等学校総合文化祭2023かごしま総文 郷土芸能部門では、台風による影響を受けつつも、見事初めての最優秀賞、文部科学大臣賞に輝き、東京国立劇場でも演奏させていただきました。演奏いたしました神楽太鼓組曲「祈り」は、尾張南西部地方に伝わる左手でバチを回しながら長胴太鼓と締め太鼓を打つ創作和太鼓にはない打法を特徴とする郷土芸能「神楽太鼓」と、地元烏森町の八幡神社に江戸時代から伝わる「町之切獅子舞」を題材に、ストーリー性、メッセージ性を盛り込んだ舞台作品で、「四ツ節」「町之切獅子舞」「松輪」「道行き」の4部から構成されます。前半は土地に暮らす人々の幸せを共に祈った「芸能の精神」、後半は屋台太鼓や大桶太鼓が演奏を盛り上げながら、新たな時代を生きる私たち高校生の「未来への願い」を込めて演奏しました。ただ、公演に伴う運搬や移動費用が高いため、破れた太鼓はずっと直せないままです。同窓会の皆様におかれましては、厳しい我が部の運営状況について何卒ご理解を賜り、今後ともますます和太鼓部へのご協力を心よりお願い申し上げます。



人生の一ページ

和太鼓部3年部長

佐藤 大将

松蔭高校に入学をして、始めて和太鼓部の演奏を見たとき、響きわたる太鼓の音と、それを包み込む熱気に心が動かされた。当時の僕は慣れない高校生活によって憂鬱な気持ちになっていたのだが、前向きな気持ちになったことを覚えていた。そして、「誰かを感動させるようなことがしたい。」という気持ちが芽生えた。

今年の夏に、鹿児島県の奄美大島で全国大会が開催された。僕は国立劇場で行われる優秀校東京公演の出場を目標にしていた。つまり、二位以内である。しかし、全国という場においても、「目の前の人を感動させる。」という想いは変わらなかった。誰が見ても感動するような演奏をすれば、視線と結果がついてくるだろう、と。

練習後には毎日、話し合いを全員でした。今の自分たちには何が足りないのか、どうして捨て0時に立つのか、何を伝えたいのか。どんな作品にしたのか、一人一人の意見をぶつけ合い、聞き合った。そうすることで、全員で一つの演奏を作り上げるぞという熱気が徐々に生まれ、演奏を終えた、本物の感情が演奏から溢れるようになった。

「精一杯やり切ろう。」そう言って本番に挑んだ。結果は最優秀、文部科学大臣賞、創部以来初の全国大会優勝だった。そして国立劇場の切符を手に入れた。ここまで来れたのは、先生方、コーチ、先輩、地域の方々、家族、そして友達……。沢山の人の支えられてこそのことだった。国立劇場での演奏は、そんな人たちへの感謝と恩返しをテーマに取り組んだ。

国立劇場での演奏は不安だった。失敗することに対してではない。悔いが残ることが怖かったのだ。僕たちにとって国立劇場は最後の演奏だった。しかしそんな不安は、幕が上がって、最初の音が響くと同時に消え去った。目の前に見て下さる人がいて、自分達が全身全霊で演奏する。たまたま舞台が豪華なだけでいつもと何も変わらないのだ。誰もが歯を食いしばって、顔をぐちゃぐちゃにしながら音を鳴らしているのが見なくても分かった。最後の音が響く。そして幕は下りた。笑うものがいた。天を仰ぐ者がいた。涙を流す者がいた。皆が顔を赤くしながら、無言で見つめ合っていた。それは何かを全力で成し遂げた者だけが到達できる、尊い時間だった。

「誰かに感動を与える」それは途方もなく苦しくて素敵なことだと思ふ。僕の青春の一ページは終わってしまったけれど、まだまだ多くのページが続くのだろう。この三年間を深く心に刻みながら、僕はまた新しいページをめくる。

教職員異動報告

●令和5年度

【退職者】

校長 渡邊 修 退職
教諭 岡村 育子 退職
三澤 徳久 退職

藤中 政治(地歴公民) 愛知県立松蔭高等学校(再任用)へ
渡邊 正孝(数学) 愛知県立松蔭高等学校(再任用)へ
岩田 賢治(英語) 愛知県立松蔭高等学校(再任用)へ
松永 光司(英語) 愛知県立松蔭高等学校(再任用)へ
坂崎 啓子 退職

【転出者】

教頭 大橋 一幸(地歴公民) 愛知県立五条高等学校へ
教諭 酒向 宏明(保健体育) 愛知県立旭丘高等学校へ
竹島 優太(保健体育) 愛知県立天山総合高等学校へ
石田 秀憲(英語) 愛知県立豊明高等学校へ
村尾 浩司(地歴) 愛知県立昭和高等学校へ
朝羽 淳(体育) 愛知県立日進高等学校へ
鶴田 治之(理科) 愛知県立千種高等学校へ

【期間満了者】

教諭(再任用) 国枝由美子(英語) 愛知県立松蔭高等学校(育児短時間補充)へ
任期付任用教諭 川崎 寿栄(英語) 愛知県立稲沢緑風館高等学校へ
任期付任用養護教諭 塩見奈津美(養護) 愛知県立一宮聾学校へ
臨時的任用教諭 石樽 実紀(英語) 愛知県立岡崎北高等学校へ

【転入者】

教頭 加藤 大真(数学) 愛知県立熱田高等学校から
教諭 小澤 宗良(理科) 愛知県立春日井高等学校から
川添 寛将(数学) 愛知県立南陽高等学校から
尾崎 路子(英語) 愛知県立明和高等学校から
鈴木 淳文(情報) 愛知県立知多翔洋高等学校から
鬼頭 孝子(国語) 愛知県立常滑高等学校から
安田 良輔(保健体育) 愛知県立商業高等学校から
鈴木 杏奈(英語) 愛知県立春日井東高等学校から

【再任用】

教諭(再任用) 飯田 尚志(保健体育) 継続
長谷部幸治(数学) 継続
松井 宏介(理科) 継続
柴山 幸雄(理科) 継続
亀井 桂司(英語) 愛知県立愛知総合工科高等学校から
実習教諭(再任用) 高橋恵美子 継続

【任期付・非常勤等】

臨時的任用教諭 滝沢 酒蔵(英語) 新規
臨時的任用講師 澁木 和薫(保健体育) 愛知県立高蔵寺高等学校から
臨時的任用実習教員 土井 靖之(理科) 継続
任期付任用講師 松田 直也(理科) 継続
任期付任用教諭 国枝由美子(英語) 愛知県立松蔭高等学校から
小宮 淳美(家庭) 継続
臨時的任用主事 松岡菜穂美 新規
非常勤用務員 古川 儀典 継続
坂野 敏江 継続



進路指導部からの報告

まずは今春の進路結果についてご報告させていただきます。国公立大学には、106名(現役生93、浪人生13)が合格しました。松蔭高校としては、2年連続の国公立大学合格者数三桁達成です。名古屋大学にも現浪合わせて9名が合格、名古屋工業大学では昨年度を上回る合格数を達成できました。また、文系諸君が健闘の結果、愛知県立大学や名古屋市立大学に例年を超える合格者を出したことが特徴的です。昨年度に引き続き、幅広い道府県に目を向けて挑戦することができました。コロナ禍に翻弄された3年間を過ごした諸君でありましたが、へこたれず、くじけることなく、地道に、最後まで松蔭での生活を全うできた諸君が勝ち取れた結果であると考えます。国公立大学合格者数だけがすべてではないの言うまでもないことです。とはいえ、中学生やその保護者の皆さまにとつて、こうした実績が松蔭の大きな魅力になればと思います。ぎすぎすしていないが、ピリッと締めはある、そんな進学校であることを目指していきたいものです。

私立大学に関しては、東海地区文系最難関の南山大学に昨年よりもさらに多くの諸君が合格を勝ち取ってしました。今年度は立命館大学など関西地方の大学を受験、合格した者が多かったことが目立ちます。本校に限らず、愛知県の高校生進学動向は、強い地元志向であることで有名です。ご家庭の事情も斟酌しなくてはなりませんが、関東地区の難関校にも積極的に挑むなど、国公立大学と同様、全国区で羽ばたいてくれることも期待したいところです。

高校の学習指導要領というものの切り替わり目になり、現2年生から科目名や科目構成、内容などが変わり、大学入試も大きな影響を受けるという報道がなされることもあります。様々な情報が飛び交いますが、日々の学習に地道にとり組むことの重要性は変わりません。新しいカリキュラムになったからといって、入試に向けて、何か特別なことをしなくてはならないということはありません。情報の洪水に振り回されず、浮足立たない、これが肝要です。じたばたせず、どっしり構えながらも勘所ははずさない。それが松蔭の進路指導だと胸を張れるようにありたいと、模索の日々です。



まつかけ会ゴルフコンペ第41回

優勝にさいして

12回生 林 直樹

82歳になる自分が3回目の優勝、12年ぶりである。

本人はもとより仲間たちもビックリ！高齢になった昨今は練習の方も程々で、現地では山々、樹木、花を見ながらの無欲のラウンドだった。ところが今回はなぜか一打一打を大事にしていた様に思う。出来ればもう一度上位に!! そんな『欲と希望』がそうさせたかもしれない。挑戦する、あきらめないという想いがサプリメントになってくれた様だ。高齢者⇒幸齢者になれるヒントは身近に有るのではと感じたメモリアルな5月19日だった。他に、ベストグロス賞とエージシュート達成できたことが嬉しい。また、同伴者、会の関係者には大変感謝です。

順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	林 直 樹	82	10.8	71.2
準優勝	高 村 豊 明	86	14.4	71.6
3 位	一 村 勝 彦	82	9.6	72.4
4 位	廣 田 春 生	90	16.8	73.2
5 位	青 木 八 束	87	13.2	73.8
6 位	宮 崎 弘 一	87	13.2	73.8
7 位	岩 間 次 郎	98	24	74
8 位	岡 田 義 郎	85	10.8	74.2
9 位	山 田 弘 幸	85	10.8	74.2
10 位	加 藤 文 昭	94	19.2	74.8



まつかけ会ゴルフコンペ第42回

順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	一 村 勝 彦	88	15.6	72.4
準優勝	山 田 弘 幸	88	14.4	73.6
3 位	廣 田 春 生	92	18	74
4 位	山 田 章 二	86	12	74
5 位	青 木 八 束	91	16.8	74.2
6 位	寛 靖 彦	100	25.2	74.8
7 位	高 村 豊 明	94	19.2	74.8
8 位	林 直 樹	93	18	75
9 位	岩 間 次 郎	93	18	75
10 位	岡 田 義 郎	87	12	75



Web口座振替受付サービスのご案内

※昨年度に紙で申し込みされた方は手続き不要です。

手続き

スマートフォンで右の二次元コードを読み取り手続きを開始します。
(ご家族の方のスマートフォンでも可能です)



※「register@acctrans-reg.jp」からメールが受信できるよう、受信フィルタをご設定ください。 ※メールが届かない場合でも、右の【完了】画面が表示されていれば登録完了です。
※Web口座振替の登録メールを受信しても、画面が【完了】になる前にブラウザを閉じると手続き完了になりませんのでご注意ください。

注意事項

1. 法人の口座は、ご利用いただくことができません。
2. 金融機関毎に利用可能な時間帯が異なります。
3. 金融機関によっては、本人確認のため、通帳に印刷されている最終残高の入力が必要になります。
4. キャッシュカード未発行の口座はご利用いただけません。

お問い合わせ先：共立コンピューターサービス株式会社

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地の9 TEL：0584-77-2810

委託者番号	0902716795	アクセスキー	e50385
委託者名	日本メール株式会社(まつかけ会)	代金等の種類	同窓会費等
委託者住所	〒460-0024 愛知県名古屋市中区正木3-13-8 山田ビル 1F・2F	振替(払込)日	28日(休業日の場合は翌営業日)

令和4年度協力金納入者御芳名

(1口、3,000円)

万一、御芳名もれがございましたら御容赦下さい。

令和4年7月1日から令和5年4月末日までの間にお振込みいただいた方を、※以降にお振込みいただいた方は次回掲載させていただきます。

旧職員

山田 柁之

昭和29年卒業(第6回)

大野 英夫

昭和25年卒業(第2回)

加藤 安信

吉田(河西)敏子

加藤 安信

石黒(杉山)すみ子

浅井 時江

立松(立松)艶子

浅野 正夫

昭和26年卒業(第3回)

石原 健

市江 更治

内田 一枝

酒井(加賀)米子

大井 洋子

野村 彰央

常盤井 礼十

昭和27年卒業(第4回)

中島 宏

井上 義明

服部 保孝

鶴飼 博

橋本 みつ子

西川(武山)幸子

花井 幹郎

坂野 雅史

平井 佳子

服部 治昭

平野 清

荒川 達子

細 典彦

高坂 泰右

中川中學校

昭和30年卒業(第7回)

昭和20年卒業(第1回)

高木 守正

須田 亮司

昭和28年卒業(第5回)

中島 光雄

京 藤健司

昭和21年卒業(第3回)

三輪 義治

古田 肥弘

榑原(辻野)ゆき

昭和22年卒業(第4回)

長谷川 士郎

横井 正治

藤田 富久

昭和23年卒業(第5回)

富田(岸本)トシ

鶴飼 利雄

黒川(荒川)八重子

加藤 睦美

内山(加藤)敏子

鈴木 照仁

鰐部(内藤)清子

昭和24年卒業(第6回)

伊藤(中込)喜美子

恒川 正男

角(山本)貞子

吉田 孝則

山田 昭信

松蔭高等学校

伊藤 昇

昭和24年卒業(第1回)

宮村 勉

酒井 幸治

石川(岩永)妙子

中川 六之

落水(山田)晃子

古橋 攝郎

安藤(安藤)美智子

寺村(飯田)百合子

松井(祖父江)和子

新美(中川)潤子
角田(早川)良子
昭挺屋 義博
成田 芳彦
小島(大鹿)おわ子森 益男
岩田 晏弘
上園 義輝
河内 進盈
山口 浩
山田 広嗣赤坂(中島)美津子
岩間 次郎
佐藤 誠
加藤(津田)貴美恵
長塚(村井)美代子
牛古(森本)克子伊藤 達雄
中村(宇佐美)正勝
河津(恒川)悠美子
片山(片山)英子
古田(清水)萬里
渡辺(山田)岑子鶴飼 三樹雄
柴田 正恵
奥田 英毅
村瀬 正光
安井 邦昭
福島 一枝服部 岩雄
松川 祥二
山田 善法
山田(小出)久子
早川 利子
船越 宣幸水野(梅村)豊子
石原 克己
岩室 幸雄
加藤 文雄
近藤 恭正
伊藤 恭正

昭和31年卒業(第8回)

小澤(浅井) 松

荒谷 勇

坪井 瑞彦

鈴木(早瀬)和子

山岸 英世

福永 孝雄

昭和32年卒業(第9回)

西尾(清水)紀子

村瀬 尤一

山名 一世

一杉 治夫

水谷 徳二

磯野(青山)久美子

昭和33年卒業(第10回)

佐藤(山田)悦子

片山(市野)主水

今木 英男

田島 一宏

細川 良雄

平松 銃一

昭和34年卒業(第11回)

鬼頭 孝司

荒川(木村)紘

廣田 春生

横井 一

川治 宏己

丹羽 宗一

昭和35年卒業(第12回)

成田(浅井)禄郎

河津 大器

鹿島 貞和

成田 洋之

吉田 憲示

宮内 博

昭和36年卒業(第13回)

杉原 良太郎

山口 悟

三輪(鈴村)時子

植村 昭太郎

稲垣(後藤)智和

昭和37年卒業(第14回)

武田 健二

山田 立之

佐藤(福倉)新治

早瀬 房紀

丹羽 正人

成田 洋之

昭和38年卒業(第15回)

新田 昭之助

松浦 昇

鶴飼(服部)たま

柳瀬 満治

竹内(坪井)美子

今井(笹木)春代

昭和39年卒業(第16回)

加藤(樋口)あや子

小川 靖二

田口 宗男

辻(樋口)誠吾

吉田 憲示

宮内 博

昭和40年卒業(第17回)

森(尾藤) 浩

飯田(加藤)容子

早川 栄一

水庫 忠明

吉岡 文彦

黒部(山田)久美子

昭和41年卒業(第18回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和42年卒業(第19回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和43年卒業(第20回)

菊岡 博

中島 幸生

佐藤 幸生

内山 信司

奥村 彰司

服部 芳美

昭和44年卒業(第21回)

梅村 隆美

北畠 正典

鈴木 英利

志津野 博行

田中 雅

戸谷 賢一

昭和45年卒業(第22回)

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

黒部(山田)久美子

昭和46年卒業(第23回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和47年卒業(第24回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和48年卒業(第25回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和49年卒業(第26回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和50年卒業(第27回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和51年卒業(第28回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和52年卒業(第29回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和53年卒業(第30回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和54年卒業(第31回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和55年卒業(第32回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和56年卒業(第33回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和57年卒業(第34回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和58年卒業(第35回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和59年卒業(第36回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和60年卒業(第37回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和61年卒業(第38回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和62年卒業(第39回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和63年卒業(第40回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和64年卒業(第41回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

富川(宮崎)法美

渡辺(浅井)英子

鬼頭 叔子

中村(鈴木)忍

昭和65年卒業(第42回)

建守 徹

山崎(野間)圭子

西村(杉原)肇子

近造(榑原)徳司

木村(清水)勝正

土方 達雄

昭和66年卒業(第43回)

船越 宣幸

吉村(木村)由紀子

朝日茂	秀熊(小保みゆき)	平野雅俊	廣瀬典和	昭和55年卒業(第32回)	織田しのぶ	西川明
平岩芳和	加藤丈治	知崎敏満	坪井誠健	昭和52年卒業(第29回)	梅村(田中)美雪	福沢充孝
昭和45年卒業(第22回)	相原博	黒柳富嗣	二村智史	木村剛	昭和60年卒業(第37回)	野々垣晃弘
森明彦	隅田裕志	中尾(鷺見)恵子	宮原信司	黒川俊久	川島幹生	恒川誠一
近藤初美	川本孝之	林(後藤)紀子	宮角良治	堀田誠	鈴木裕二	後藤拓也
奥村(橋本)とし子	竹野(後藤)かつ江	貝沼功	村上(吉田)基子	長田あづみ	渡辺一成	平成3年卒業(第43回)
成田護	柳瀬(藤吉)朋子	宮崎弘一	石黒裕二	峯博之	宮田直美	蜂須賀仁
伊藤博康	金沢(三中)朝子	宮寄貴	黒田康正	昭和56年卒業(第33回)	加藤徹也	梅村整司
加藤(内藤)光隆	小長谷(矢田)喜代美	昭和50年卒業(第27回)	丹羽雄二	加藤徹也	昭和61年卒業(第38回)	平成4年卒業(第44回)
平岩(柴田)久江	小川信彦	河原雅己	森龍憲	小関昭二	川口博志	平成4年卒業(第44回)
前田誠	加藤文昭	西村(大江)真理子	山田久男	塚崎崇史	中島洋	北川直樹
岡田陽平	山本志伸	後藤(貝沼)まゆみ	太田(稲垣)志保美	河口賢治	谷口賢治	西村政洋
昭和46年卒業(第23回)	森(加藤)育代	林(佐野)恭子	中川(鈴木)秀子	中島健三	中島健三	平成5年卒業(第45回)
野間ますみ	澤木(富田)三枝子	鈴木(市川)由紀子	向川(山田)知里	谷口賢治	太田博久	加藤俊和
肆矢渡辺(房子)	鯉江(梨乃)祥恵	北村(佐藤)恵子	池田和夫	渡辺理恵	多湖(浦中)清未	三谷(長村)ルツ
三澤(立松)美登里	稲垣宏	松本(荒川)鏡子	田中敦司	荻原範久	萱野(安井)真理子	辻村(高木)祐子
八木孝司	加藤謙治	早川(山口)悦央	森康美	佐井紹謙	馬場紀行	後藤伸之
箭内勝彦	星野行正	川口(山口)悦央	笠原(奥村)幸江	武田正博	昭和57年卒業(第34回)	平成6年卒業(第46回)
服部裕康	藤井(木村)洋子	野田(船戸)公子	柳澤(広瀬)美幸	早川立	市江保昭	野田哲也
大矢近藤茂美	牧平(山下)順子	森島保	三輪田(神戸)由恵	上田毅	風岡伸二	近健太郎
木下(安井)規子	大西一巳	大川一雄	小塚(野尻)真美子	河井敬宜	太田昭生	竹内(西脇)志保
日比一昭	富田善光	森友良	長谷川泰生	筒井(伊藤)明美	岡田康裕	佐藤弘将
西川王将	中原公彦	昭和51年卒業(第28回)	各務泰	丹羽伸之	佐々木裕二	平成7年卒業(第47回)
水谷久美子	野瀬茂	佐野孝幸	鬼頭徳広	多田一	丸山隆	吉村(鬼頭)美奈
昭和47年卒業(第24回)	橋本康夫	細溝宏友	富田英寿	丸山隆	森本史朗	平成10年卒業(第50回)
長谷川泰夫	岡田(牧)千鶴子	石川(永津)由美子	中川悟	奥村善洋	木村(高橋)雅子	伊藤尚文
寺倉(異相)かをり	寺尾恒川(弥生)	伊庭宏治	山田邦雄	高橋(三枚堂)京子	内田有美	山田邦博
岡村和恵	金子鉄男	松川幸弘	櫻井佳由利	村井浩	吉田淳二	平成12年卒業(第52回)
奥村昇	丹下昭二	平田(稲山)圭子	荻田修一	杉浦純	糸賀(山田)多美恵	森島夏樹
河野裕一	橋本雅司	櫻井智章	風岡利枝	熊切(加賀)由美代	大澤泰昌	鏡味淳
佐藤武文	村瀬正美	安井芳治	西川正一	山崎雅文	細江秀喜	坪井(伊藤)康子
立木憲昌	安井芳治	鏡味淳	昭和49年卒業(第26回)	石原(奥村)直子	石井(杉山)路世	伊藤遠島(とも子)
昭和48年卒業(第25回)	天野広美	西川正一	種田寛	伊藤久仁	和田(神倉)夏己	中島小栗奈穂美
石原(伊藤)文江	竹村(岡部)由美子	昭和49年卒業(第26回)	細江秀喜	坪井(伊藤)康子	近藤邦仁	富内光也
市川(金井)賀代子	岩田(の場)範子	小出美喜夫	望月宏秋	高山(野呂)淳子	大山岡昌博	大山岡昌博
山内守	高山(野呂)淳子	大山岡昌博	大山岡昌博	大山岡昌博	大山岡昌博	大山岡昌博

〈自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日〉

収入の部		支出の部	
繰越金	4,126,029円	役員会会合代	37,510円
令和4年度入会金	1,745,000円	松蔭アカデミー講師料	30,000円
会費	1,992,965円	会報40号発行費	3,497,898円
利息等	44円	卒業証書ファイル代(＠680×350)	259,556円
合計	7,864,038円	部活動奨励費	200,000円
		振込手数料	1,100円
		合計	4,026,064円

令和5年4月30日 会計監査 児玉 康彦

佐藤 栄介	平成23年卒業(第62回)	長岡 咲子
西 和子	平成31年卒業(第70回)	
児玉(山内) 綾子	渡邊 孝哉	
成16年卒業(第55回)	令和2年卒業(第71回)	
村上 由一	逆瀬川 智香	
成18年卒業(第57回)		
關野 尊久	林 紘平	
成19年卒業(第58回)	阿部 正和	
三輪 祐介	令和3年卒業(第72回)	
野村後藤法子	清水 洸世	
村上 正成	長岡 幹子	
成21年卒業(第60回)	浅井 孟	
加茂 愛仁		
成22年卒業(第61回)		
大島 国和	桜井(加賀) 郁子様 (昭和35年卒業)のご主人様より寄付金をいただきました。	
田中 祥太郎		

まつかけ会事務局

改姓 住所変更 等のご連絡時に、送付された住所・氏名の上部に記載されている数字を必ずご記入ください。
また、同級生・同窓生で、町名・地番が変更になり、届かなくなったという方がいらっしゃいましたら、メール、郵送等でご連絡いただくようお願いください。(宛先不明との理由で大量に戻ってきました。)

同窓会(まつかけ会)HP <https://matsukage.aichi-shoin.jp>

まつかけ会ホームページ



事務局／管理委託会社

日本メール(株) 担当：三澤

〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-8

学校に事務局はありませんので連絡は郵送かメールにてお願いします。

000-0000

〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇

松蔭 太郎 様

※ 99999



※

の部分の数字を
必ずご記入ください!!

住所変更届

氏 名
(旧姓)

No.

提出日 月 日

卒業年度	昭和 平成 令和	年	普通 商業	組
------	----------------	---	----------	---

新 住 所

電話 () —

旧 住 所

以上をご記入の上、同窓会事務局に郵送。

郵送先

愛知県中川中學校 同窓会「まつかけ会」
愛知県立松蔭高等学校
事務局／管理委託会社 日本メール(株) 担当：三澤
〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-8

『まつかけ会年会費』ご協力のお願い

『まつかけ会』会報は皆様方の年会費で発行されています。何卒御協力をお願い申し上げます。

・まつかけ会年会費：3,000円 ・お支払い方法：口座振替 または コンビニ払込
(口座振替の手続き方法については会報中面をご確認ください。)

※お支払いはどちらか一方の方法をお願い申し上げます。(口座振替を申込された方はコンビニ払込は不要です)

S57年卒「還暦同窓会」の様子を
まつかけ会ホームページに
掲載いたしました。

詳しくはこちら



七回生 米寿を祝う会の様子
まつかけ会ホームページに
掲載いたしました。

詳しくはこちら

